iDEND

障害者雇用を、企業の成長エンジンに。

「義務」から「戦略」へ。企業価値を高める新しい視点



NotebookLM

「義務」や「負担」だと考えていませんか？



「法定雇用率がまた上がる。対応しなければならない…」



「現場の負担が増えるだけではないか？」



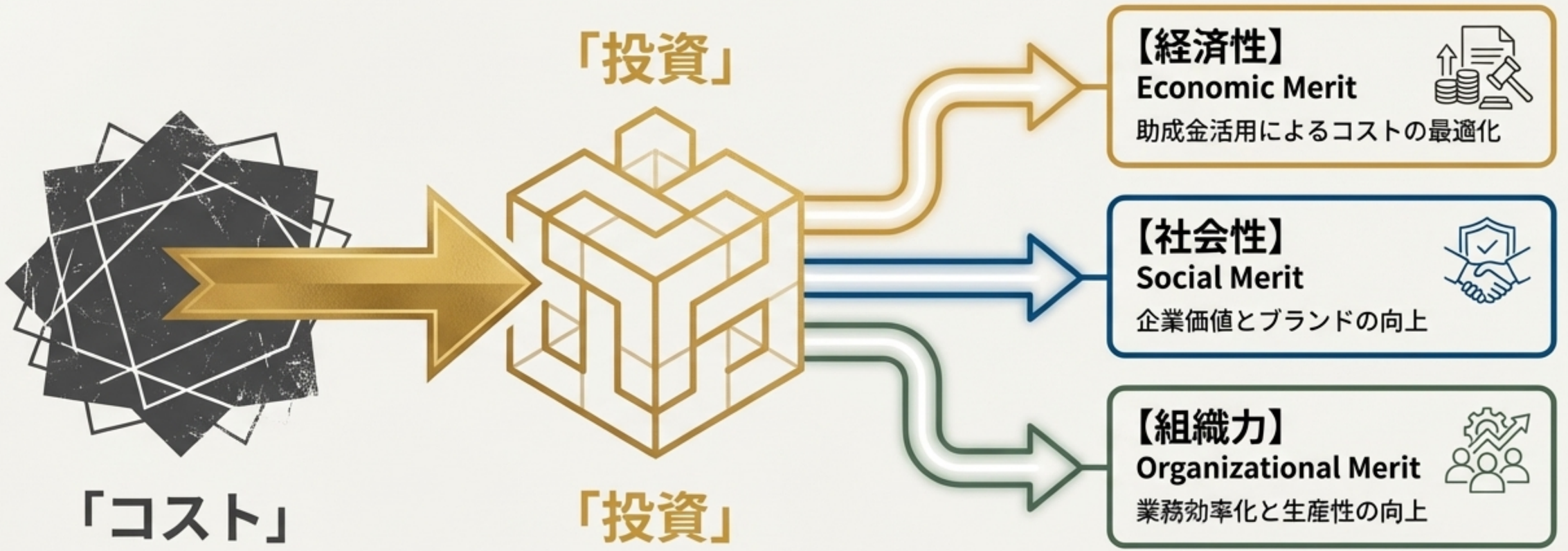
「どんな業務を任せればいいのか分からない…」



「コストがかさむだけで、メリットが見えない…」

NotebookLM

障害者雇用は「コスト」ではなく、
組織を強くする「戦略的投資」です。



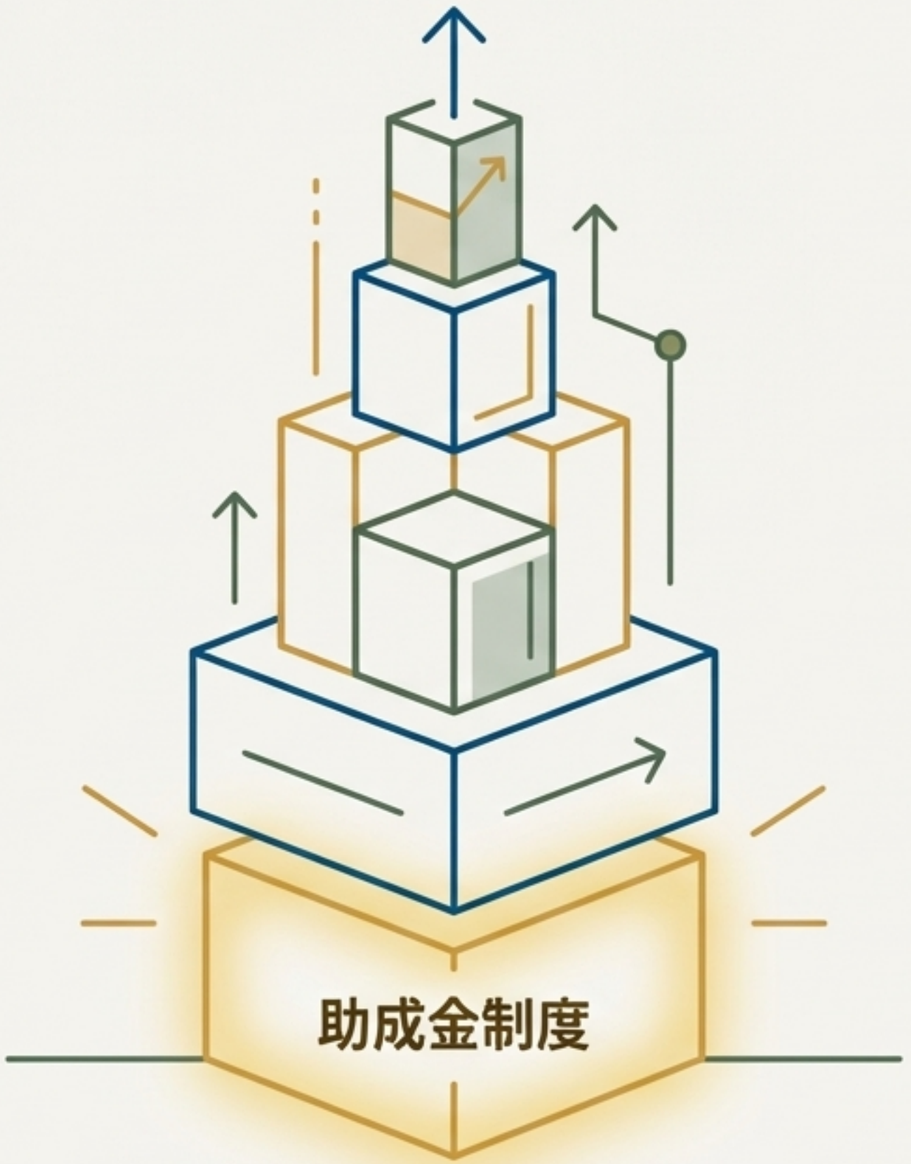
障害者雇用への適切な取り組みは、貴社に3つの大きなメリットをもたらします。

NotebookLM

メリット①【経済性】：助成金を活用し、採用・定着コストを最適化する

障害者雇用に取り組む企業には、採用コストや設備投資、人材定着にかかる費用を補うための、充実した助成金制度が用意されています。
これらを戦略的に活用することで、財務的な負担を大幅に軽減し、実質的な投資対効果を高めることが可能です。

- **採用時の支援: 特定求職者雇用開発助成金**
- **試用期間の支援: トライアル雇用助成金**
- **定着後の支援: 障害者雇用安定助成金**



NotebookLM

具体的な助成金制度と支給額（中小企業の場合）

特定求職者雇用開発助成金（特定就職困難者コース）



対象：ハローワーク等の紹介による雇用

支給額：
重度身体・知的障害者等：
最大240万円(支給期間3年)
上記以外の身体・知的・精神障害者等：**最大120万円**(支給期間2年)

トライアル雇用助成金



対象：3ヶ月間の試行雇用

支給額：**月額最大4万円**

障害者雇用安定助成金（障害者職場定着支援コース）



対象：柔軟な勤務制度の導入など、職場定着のための支援を実施した場合

助成内容は多岐にわたります。
詳細はお問い合わせください。

NotebookLM



メリット②【社会性】：企業価値とブランドイメージを向上させる

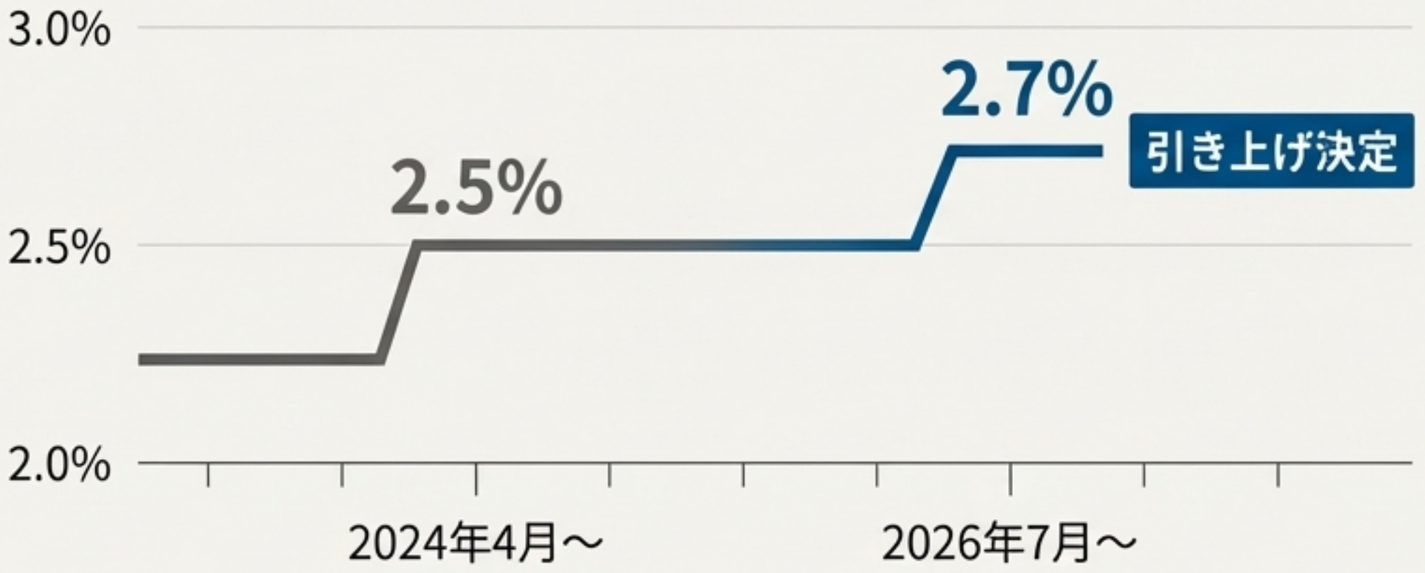
SDGsやダイバーシティ経営への関心が高まる現代において、障害者雇用への取り組みは企業の社会的評価に直結します。
「多様な人材が活躍できる会社」という姿勢は、投資家、取引先、そして消費者からの信頼を獲得し、持続的な成長の基盤となります。

企業ブランドの向上：「誰もが働きやすい職場」というイメージは、障害の有無に関わらず、優秀な人材を惹きつける採用競争力にも繋がります。
CSR / SDGsへの貢献：社会的責任を果たす企業としての姿勢を明確にアピールできます。

NotebookLM

法令遵守（コンプライアンス）と、高まる法定雇用率への備え

法定雇用率の達成は、企業としての基本的な責務です。
未達成の場合、納付金の支払いや企業名公表のリスクも伴います。

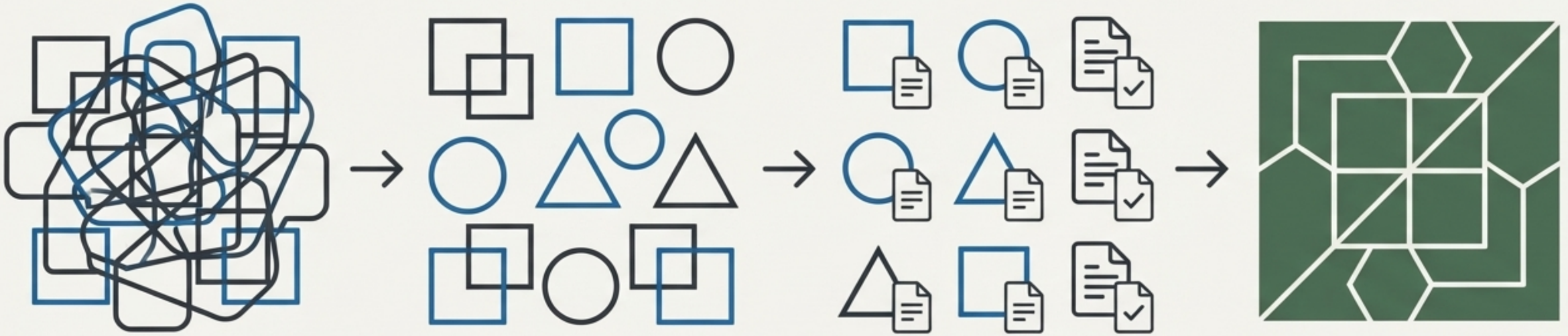


「2.7%時代」への対応は、もはや先延ばしにできない経営課題です。
早期の対策が、将来的なリスクを回避し、競合優位性につながります。

NotebookLM

メリット③【組織力】：業務の「切り出し」が、組織全体の生産性を向上させる

障害のある社員に活躍してもらうためには、既存の業務を見直し、特定のタスクを切り出すプロセス（タスク・ブレイクダウン）が不可欠です。このプロセスそのものが、業務の属人化を解消し、組織全体の業務効率を飛躍的に高めるきっかけとなります。

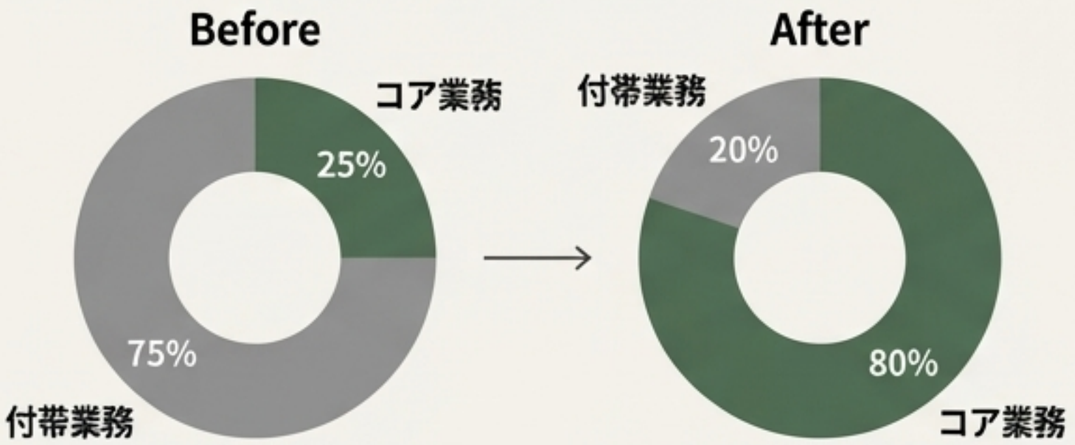


[既存業務の棚卸し] [業務の切り出し] [マニュアル化・標準化] [組織全体の効率化]

NotebookLM

業務切り出しがもたらす2つの大きな成果

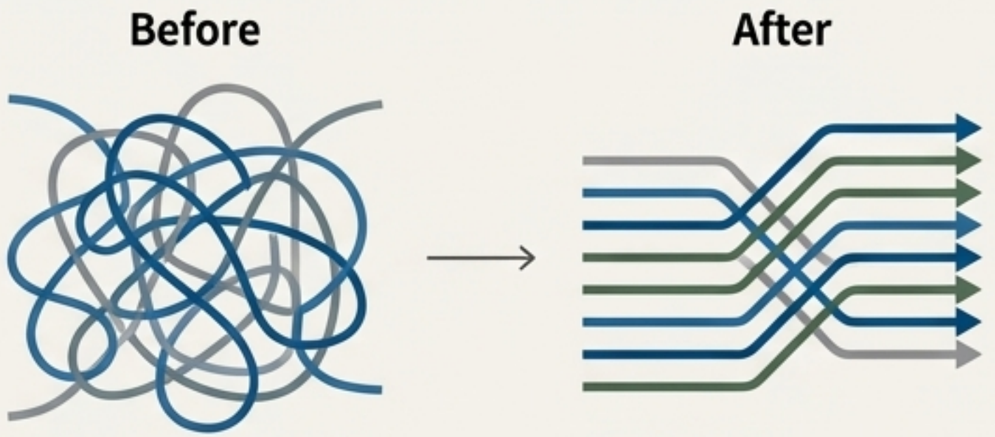
成果1：社員のコア業務への集中



Before：専門知識を持つ社員が、書類整理、データ入力、備品管理などの付帯業務に時間を費やしている。

After：切り出した業務を障害のある社員が担当。既存社員は、より専門性や高度な判断が求められる「コア業務」に集中でき、本来の能力を最大限に発揮。

成果2：業務の可視化と標準化



Before：特定の担当者しか分からない「属人化」した業務が存在。その人が休むと業務が滞る。

After：「誰にでもわかるように」業務を整理・マニュアル化する過程で、非効率なフローが改善。業務が標準化され、組織としての安定性が向上。

NotebookLM

実践事例：IT企業A社（従業員50名）が実現した組織変革

課題（Challenge）

エンジニアが顧客対応や事務作業に多くの時間を取られ、本来の開発業務に集中できていなかった。

取組み（Action）

- 精神障害のある方を2名採用。
- データ入力、テスト環境の準備、資料作成、備品管理といったバックオフィス業務を「切り出し」、専任で担当してもらった。

効果（Result）

- エンジニアの残業時間が大幅に減少。
- コア業務である開発のスピードと質が向上。
- 採用された2名も、自身の特性に合った環境で高い精度で業務をこなし、今や組織に不可欠な「戦力」となっている。

「エンジニアが開発に集中できるようになり、プロジェクトの進行が加速しました。」

— A社 開発部門マネージャー

NotebookLM

まず何から始めるか？担当者向け・実践スタートアップリスト

成功への第一歩は、現状を把握し、準備を始めることです。まずは以下の4点を確認してみましょう。

- [ ] **業務の棚卸し**：自社で切り出せそうな業務（単純作業、定型業務、PC入力など）はあるか？
- [ ] **助成金の確認**：活用できる助成金制度について、最新の情報を調べたか？
- [ ] **社内理解の醸成**：受け入れ部署の社員に対し、障害者雇用への理解を促す準備はできているか？
- [ ] **外部連携の構築**：ハローワークや就労移行支援事業所など、相談できる支援機関との接点はあるか？

NotebookLM

アイデンドが、最初の一歩から戦力化、定着まで伴走します。

採用の検討段階から採用後のフォローまで、企業様と働くご本人の双方をサポートし、障害者雇用を成功に導きます。

職場実習のコーディネート

雇用前のミスマッチを防ぐ、最も効果的な方法です。
候補者の方に実際の業務を体験してもらうことで、
スキルや職場適性を正確に見極めることができます。

実習

採用

定着

採用後の定着支援

入社後が本当のスタートです。専任のスタッフが定期的に企業様とご本人を訪問。業務上の課題や人間関係の悩みを早期に発見し、解決をサポートすることで、長期的な活躍を実現します。

NotebookLM

よくあるご質問：はじめの一歩の不安を解消します

Q 初めての障害者雇用で、何から手をつけていいか分からず不安です。

A ご安心ください。まずは短時間勤務や、3ヶ月間の「トライアル雇用」から始めることをお勧めします。アイデンドのような支援機関が全面的にサポートしますので、少しずつ社内体制を整えていくことが可能です。

Q どのような業務を任せればよいのでしょうか？

A 書類整理、データ入力、郵便物の仕分け、備品管理といった定型業務が一般的です。しかし、ご本人のスキルや経験によっては、プログラミング、Webデザイン、経理補助など、より専門的な業務を担える方も多くいらっしゃいます。貴社の業務内容をヒアリングし、最適なマッチングをご提案します。

NotebookLM

「こんなことを聞いてもいいのかな？」と、ためらわないでください。



アイデンドスタッフより

「何から始めたらいいかわからない」という企業様からのご相談が、実は最も多いご相談です。

私たちは、まず貴社の中にどんな仕事があるかを一緒に整理するところからお手伝いします。障害のある方の「強み」を活かせる場所が、きっと御社にもあるはずです。どんな小さなことでも、まずはお気軽ご相談ください。

NotebookLM

まずは、御社の可能性について話しませんか？

障害者雇用を通じた、企業の新たな成長戦略をご一緒に考えます。ご相談はすべて無料です。

お問い合わせフォーム

お電話でのお問い合わせ

アイデンド八戸：0178-32-0617（平日9-17時）

アイデンド十和田：0176-58-6257（平日9-17時）

manaby CREATORS 八戸：0178-51-8951（平日9-17時）

IDEND

NotebookLM